

測 定 する 能 力	
論理的言語力	論理的読解力A
論理的読解力B	論理的読解力A
論理的思考力	論理的読解力B
論理的表現力	論理的思考力

日本語を論理的に扱う能力。一文の構造を論理的につかまえたり、「ことばのつながり」指示語・接続語などを論理的に扱う力。

文章を論理的に読む力。趣旨を的確に把握する力。小説などを客観的に読む力。

文章構造を論理的に解説する力。文と文との論理的関係、段落と段落との論理的関係、文章全体の論理構造を把握する力。

文章の要点を論理的に整理し、まとめる力。論理的に説明する力。おもに記述力・論述力。

他者に向かって、論理的に話す力。論理的に思考し、自分の考えを論理的に書く力。

《問題Ⅰ》

論理的言語力

(40点)

第一問

■解答 (各5点)

(1) 行数	4 行目	正	枯死してきている。
		誤	枯死してきていることである。
(2) 行数	15 行目	正	過去ですでに
		誤	過去ですでに
(3) 行数	2 行目	正	アカマツ林の豊かな姿は
		誤	アカマツ林の豊かな姿を
(4) 行数	10 行目	正	しかし(ところが)
		誤	たとえ
(5) 行数	16 行目	正	ごく一部の地域に
		誤	ごく一部の地域に

\*\*\*

本列島におけるアカマツと人との関係が、この時期で切れるのである。」までが、「やっかいなこと」の内容です。  
最後に、「全国的に見ると」から、アカマツが過去の樹木になりつつあることが述べられています。

《問題Ⅱ》

論理的読解力A

(40点)

第一問

■解答 (4点)

きょうまで

◆解説

まず段落Ⅰという条件を忘れないこと。欠落文は「私」が心の底から愛の言葉が沸き起こっている時なので、「危い。いますぐ、ここから逃げましょう。ペテロも来い、ヤコブも来い、ヨハネも来い、みんな来い。」の後に続きます。

\*\*\*

- ◆解説
- (1) 「原因は↓枯死してきている」では、主語と述語が対応していません。
- (2) 「過去のすでに樹木になりつつある」とありますが、「過去の」は「樹木」を説明した言葉であることから、語順を変えなければなりません。
- (3) 「アカマツ林の豊かな姿は、現在でもとどめている」とありますが、「豊かな姿」は、「とどめている」の目的語なので「は」を「を」に変えなければなりません。
- (4) 例示ではなく、逆接。
- (5) 「ごく一部の」は直後の「地域」を修饰しているので、ここに読点を打つことはできません。

第二問

■解答 (各5点)

- 第二段落 その最も大きな  
第三段落 さらに、やっかい  
第四段落 全国的に見ると

◆解説

第一段落では、「アカマツ林がさびれてきた原因はどこにあるのだろうか」と、問題提起しています。  
それを受けて、第二段落では、「その最も大きな原因は」と、原因の一つ目が示されています。  
「さらに、やっかいなことがあった。」から、二つ目の原因が示されています。「日

第三問

■解答 (各2点)

- (A) ウ (B) オ (C) ア (D) イ  
(E) エ

◆解説

(A) 直前の「あなたはどのようにして私の足などお洗いになるのです」を受けた、イエスの言葉。  
(B) イエスが、弟子たちの足を洗う理由となるものを選びます。

- (C) 直後、「私」が「やられた！ 私のことを言っているのだ。」と思うきっかけとなる、イエスの言葉が答え。  
(D) 直後の「主よ、私のことですか」と弟子たちが騒ぐきっかけとなる、イエスの言葉が答え。  
(E) 直後の「一つまみのパンをとり」から判断。

第四問

■解答 (4点)

ウ・ク

◆解説

段落Ⅰという条件に注意。  
ユダの心情で当てはまらないものを選びます。

「私には何やら、あの人の秘めた思いがわかるような気持でありました」から、「共感」。「可哀想に」から、「同情」。「おゆるし下さい」から、「謝罪」。「私はあのととき、天国を見たのかも知れない」から、「至福」。「あの人を、殺そう」から「激怒」。「復讐の鬼」から、「復讐」。それ以外の「恥辱」「嫉妬」が答え。

第五問

■解答 (4点)

立ちどまっ

◆解説

段落Ⅱとあることに注意。  
欠落文の「その小鳥の正体を一目見たいと思いましたが」を受けて、「立ちどまって首をかしげ、樹々の梢をすかして見ました」となります。

第六問

■解答 (8点)

愛するイエスから自分の裏切りを示唆され、憎しみのあまり復讐しようと思ったから。

◆解説

書くべきポイントを数えましょう。まずはユダがイエスを愛していたことを押さえます。次に、そのイエスから自分の裏切りを指摘されたことが二つ目のポイント。最後に、「憎しみ」「復讐」という言葉が必要です。

\*\*\*

《問題Ⅲ》

論理的思考力

(40点)

第一問

■解答 (各4点)

- (1) 世代で・アメリカで  
(2) ので・自然が

◆解説

(1) 二億三千万人の子どもが紛争下の国や地域で暮らしています。

(2) 日本には四季があり季節によってさまざまな風景を見ることができます。

## 第二問

■解答 (各4点)

(1) 彼はあまりにも潔癖すぎて近寄りがない。  
(2) この理論のどこが正しくて、どこが問題なのかを考える。

## ◆解説

(1) 「彼は」↓「近寄りがない」が、主語と述語。「あまりにも」↓「潔癖」↓「すぎて」が、「近寄りがない」の理由。  
(2) 「(私は)」↓「考える」が主語と述語。考えるのは、「この理論のどこが正しくて、どこが問題なのか」。

## 第三問

■解答 (各4点)

(1) 公明正大な立場。  
(2) 深刻な話を笑うとは不謹慎だ。

## ◆解説

(1) 文字を組み合わせて語句を作ります。「公明正大」という四字熟語を思い浮かべたかどうか。  
(2) 「深刻」「不謹慎」という熟語が浮かんだかどうか。

## 第四問

■解答 (8点)

私は大望ではなく、平凡な幸せだけを願っている。

## ◆解説

冒頭の「太平を楽しんでいれば不足のない侏儒でございます」が要点で、あとはその具体例。最後にもう一度「この好日を喜んでいれば不足のない侏儒でございます」と結論を繰り返しています。ちなみに「侏儒」はこびとの意味。

## 第五問

■解答 (各4点)

(1) オ (2) ア

## ◆解説

比喩の問題。(1)(2)とも「人生」をたとえたもの。  
(1) 「重大に扱うのは莫迦莫迦しい」が、その一方では「重大に扱わなければ危険なもの」は、「マッチ」。  
(2) 直後の記述から「落丁」か「欠陥」ですが、直後の「書物」を説明したものであることから、「落丁」が答え。

## 《問題Ⅳ》 論理的読解力B

(40点)

\*\*\*

## 第一問

■解答 (10点)

B → E → C → D → A

## ◆解説

Cが三番目に来るといふ条件を見逃さないこと。

Fの「こんなこと」が、Aの「愚痴、厭味」を指していることから、A↓Fとなるので、Aが最後に来ることが分かります。

Cが三番目に来るとは予め決まっています。CはEの内容を受けて、「昨今は私何が云うと、愚痴とか厭味とか云ってかわかれる」と続くので、E↓C。

そこで、( ) ↓ E → C ↓ ( ) ↓ A となります。あとは、BとDの位置を決めればよいのです。

Aの「そう云う諸君の」が、Dの文学者たちを指しているので、D↓A。

残りのBは、話しの発端となり、しかも「迷惑」の理由がEとなるので、B↓E。

## 第二問

■解答 (5点)

イ

## ◆解説

文壇で活躍している小説家の風下に立っていると世間から思われても平気な心境です。「諸君と私とを一しよに集めて、小学校のクラスの座順のように並ばせて、私に下座に座ってお辞儀をしる」と云うことなら私は平気でお辞儀をするでしょう」とあります。「諦念」「断念」が似たような意味ですが、「諦念」が積極的に受け入れるのに対して、「断念」は否定的なニュアンスなので、不適切です。

## 第三問

■解答 (各2点)

(1) エ (2) コ (3) ア (4) ク

## ◆解説

(1) 直後に「矯飾をしていないか」とあるので、「告白」。当時は何でも告白する自然主義の風潮がさかんでした。ここでは自分の考えていることを飾らずに述べているかということ。  
(2) 直前の「じいっと堪えているなんぞと云うのではありません」から、「平気」。  
(3) 直前の「下座に据えられたって困りません」という言説を受けてのことですが、「厭味」と並列であることも踏まえて、「愚痴」が答え。

(4) 直前の指示語「そういう」が「詞の概念」を受けていることから、「概念」。  
(5) 直後に「批評家の思想の貧弱ではあるまいか」とあるので、「貧弱」が答え。

## 第四問

■解答 (5点)

同じ↓違う

## ◆解説

段落Gという条件に注意。さらに「論理的に間違った箇所」とあるので、明らかに間違っている箇所を探すこと。「まず此頃談話して公にせられるものは、多くは本人の考とは同じものだと承知していた方が確なようです。」とありますが、

その直後に「先日文章世界では千葉君に気の毒な思をしましたよ。どうぞそんな間違の無いように、この話はそのままそっくり出して下さい。」とあることから、「談話して公にせられるもの」は、本人の考えとは違ったものだと分かります。

## 第五問

■解答 (各2点)

(a) エ (b) イ (c) ウ (d) ア

(e) オ

## ◆解説

(a) 直前の「自ら欺いている」の言い換えだから、「すなわち」。  
(b) 直前では「言わずに置くのが好い」と言いながら、直後では「云われついでだから云いましょう」とあるので、逆接の「しかし」。  
(c) 直前で「平気でお辞儀をする」と述べた上で、直後ではさらに「本当に平気なのです」と付け加えているので、添加の「そして」。  
(d) 言いたいことがたくさんあると述べた上で、とりあえずは自分の立場だけを述べておくと云っているのので、副詞の「まず」。  
(e) 直前の「順序や語気」を受けて、次につなげているので、「それで」。

## 《問題Ⅴ》 論理的表現力

(40点)

\*\*\*

## 解答例

明治以後日本はいかに生産力を上げるかという近代化に邁進してきた。そのため効率や有効性を重視し、科学技術を発展させてきた。その結果、人びとの生活は豊かになったように見えるが、その一方で、様々な問題も生じてきているのではないだろうか。

たとえば、環境破壊や世界の平和を脅かす核問題やテロリズム、過度な競争からこる精神の荒廃や道徳心の欠如など、私たちは生活が豊かになったからといって決して、幸せを享受しているとは言えなくなっている。

今やこの近代の行き詰まりをどのように克服していくか、つまり、近代の超克こそが問われているのである。

## ◆解説

「近代の超克」を論じるためには、近代の行き詰まりについて論じなければなりません。そのためは、与えられた七つの語句をどう使うかが重要になっていきます。

「③問題点」とあるのは、「①近代化」における問題点であり、「⑤有効性」「⑥行き詰まり」「⑦科学技術」などを利用しなければなりません。

また条件5の「原稿用紙の表記上の規則に従うこと」も見落とさないように。